

審査員特別賞

笑顔は水のそばに

滋賀県立守山中学校 3年

大崎 永菜

「今、ほしいものは何ですか？」

「水がほしい。明日生きるための、水がほしい。」

私は昨年秋、日本青年会議所さんの **SMILE by WATER** という事業の収穫祭に参加させていただくために、カンボジアのシェムリアップを訪れた。**SMILE by WATER** は、十分な水資源がない地域や、きれいな水が飲めない人達のために井戸を掘り、それだけでなく、農作物を育てる方法や魚の養殖の方法を現地の方に伝えることで、持続的な問題の解決を目指している事業である。収穫祭では、村の人達の喜びが満ち溢れ、皆の笑顔はまぶしくキラキラと輝いていた。育てられたフルーツを持ち、豊作を盛大に祝うその姿からは、それまでの「水を当たり前飲むことができなかった」という姿が想像もできなかった。

最近、カンボジアは急速に経済が発展しているとよく耳にする。実際、私がシェムリアップの前に訪れた、首都のプノンペンでは、高い建物が立ち、たくさんの人々が行き交い、そこで出会った学生達は皆、スマートフォン片手に母国語のクメール語だけでなく、英語さえも流暢に操っていた。しかし、その一方では、まだまだ水や食料を必要としている地域がたくさんある。

収穫祭を終えた後、カンボジアでの研修に同行していた大人の方が、カンボジアの中でまだ支援が届いていないところに連れて行ってくださった。そこには、ドアもない小屋のような家が、ポツンと一軒だけ建っていた。尋ねると、出てきたのは小さな女の子と男の子。親は働きに行っていて、日中は留守番をしているらしい。ふと、聞いてみた。

「今、ほしいものは何ですか？」

「水がほしい。明日生きるための、水がほしい。」

家の近くには井戸が無く、雨水をためて飲んでいるらしい。「水がほしい」というのは、もうわかりきったことではあった。それでも、私の心はぎゅっと握られたような、何ともいえない気持ちになった。そして、自分が持っていたペットボトルの水をその場で思わず渡した。たった二本の水では何も変わらないとはわかっていても、いてもたってもいられなかったのだ。本当に小さな支援だったけれど、それでも喜ぶ二人の姿を見て、私は誓った。「いつかまたここに戻って来よう。そして一緒に、少しずつカンボジアの町を水で潤したい」と。

そして今、私は日本に帰国してから、小学生に啓発活動などを通して、世界の現状や **SDGs** を伝える活動をしている。これから私は、もっと世界の問題や、その解決策、そして、世界中を綺麗な水で潤す方法をもっと学び、水と笑顔が溢れるように活動していきたい。